

議案第 1 号関係

○宇野 裕委員 一番最後に説明をいただいた文化財課の関係のことで御質問させていただいていいですかね。

今、水族館の実施設計の御説明で、この補正予算で 3,200 万が計上されていますが、この点について何点か御質問をしたいと思います。

まず、安房博物館を館山市に移譲するというような御説明でありましたが、まず、この基本的なところでお聞きしたいんですが、なぜ水族館を再整備をするのか、これをちょっと教えていただきたいと思います。

○委員長（臼井正人君） 山口課長。

○説明者（山口文化財課長） 博物館の移譲に当たっては施設や設備といったハード面は当然なんですが、収蔵資料も含めましていかに博物館の機能を継承していくかということが課題だというふうにとらえています。館山市から現在の博物館機能を包括的に継承したいという要望がございまして、安房博物館にある房総の漁民の生活、あるいは歴史、文化を学べる機能、それから水族館の機能、こういったもの、そのほとんどを継承するというので、今、協議が進められております。このうち水族館につきましては耐震性がかなり劣っております。それから昭和 39 年に竣工したということでございまして、老朽化もかなり進んでおります。そうしたことから、市からの要望を受けまして再整備するというので準備を進めております。

以上です。

○委員長（臼井正人君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 よくわかりました。地元の館山市からの要望があったということで、その辺の理由と、あと、老朽化が激しいということの御説明、わかりました。設計で3,200万ということですので、そうするとですね、次に控えるのは建設費ということになろうかと思いますが、建設費をどのぐらいもくろんでいるのか、予定しているのか。来年度予算になるのか——来年は骨格予算ですよ。やるとすれば肉づけのところでやるのかなとは思いますが、その辺のところをちょっとお聞かせください。

○委員長（臼井正人君） 山口文化財課長。

○説明者（山口文化財課長） 建設経費につきましては実施設計を行っていく段階で具体的に積算するというようになっておりますので、現在、確定はしておりませんが、大体3億から4億円ぐらいを見込んでおります。
以上です。

○委員長（臼井正人君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 3億から4億というようなことで、その建設に向けての設計費の計上ということだと思います。お役所が設計を依頼するときに——普通の自分の住宅を発注するときに、設計士さんと台所はこのぐらいの広さにしてほしいとか、寝室はこういうふうにしてほしいとか、吹き抜けにしてほしいとか、注文する側は自分の思いとかコンセプトとか——専門家ではなくてもですね、こういう家にしてほしいとかということは素朴にお願いすると思うんですよ。その辺のところですね、今回、設計をするに当たって県としての——どういう水族館を目指したいのか——市に移譲するにしてもですよ、そういうコンセプトみたいなものが、今、あるのかないのか、ちょっとお聞かせください。

○委員長（臼井正人君） 山口課長。

○説明者（山口文化財課長） コンセプトについてはですね、移譲を受ける館山市の意向を踏まえながら、今後、市と協議するという手続になるかとは思いますが、例えば館山湾の海の生物の展示のほかに見せ方を工夫することによりまして子供たちが楽しめるような、学習できるような水族館というようなものにしていきたいなどは考えております。いずれにしましても、できるだけコンセプトを早く示せるように努めてまいりたいというふうに考えております。

○委員長（臼井正人君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 その辺、非常に重要なことだと思います。最初に予算ありきで、建設費ありきで、あとは全部、業者さんにお任せということでは——今、財源が非常に厳しい、財政的に非常に厳しい時代ですので、予算ありきの発想ではなくて、どういう水族館を目指すのかというのをはっきりと——今、その辺の御決意をお聞かせいただきましたけれども、移譲する館山市さんと県の間でよく協議をしていただいて、そしてできれば市民も入れて日本にないような——予算が少ない中でもいいものをつくってもらえるような——コンセプトをはっきりとさせて設計の発注に臨んでいただきたいということをお願いしたいと思います。

それから続けてちょっとお尋ねしたいんですが、こういう世界同時不況、来年度以降、税収がどうなるかわからないというようなこともマスコミでは伝えられておりますし、そういう中でこれを移譲することによるですね、財政上、どのようなメリットが県にあるのか、その点をちょっとお尋ねしたいんです。

○委員長（臼井正人君） 山口課長。

○説明者（山口文化財課長） 県の施設としては、形として廃止ということになりますので、単純に言えばこれまでかかっていたランニングコスト——年間約1億2,500万でございますが、それが将来にわたって必要なくなるというような削減効果がまずあります。ただ、こうした経費の削減という以上にこの4月に移譲した上総博物館のケースもそうでしたけども、これまで県立館で蓄積されてきた収蔵資料、あるいはノウハウ、これに市が持つ資料を加えまして、一体的に運営することによりまして博物館としての機能そのものが高まるということもございます。それから安房博物館の近くに多目的観光棧橋というものが平成22年に完成する予定でございます。この施設との相乗効果によりましてさらに地域の活性化が図れるということもございます。このように移譲によりまして博物館がさらに有効活用されまして、地域への貢献ができればそちらのほうのメリットもあるというふうに考えております。

以上です。

○委員長（臼井正人君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 1億2,500万の県サイドのランニングコストの軽減になるということでしたので、それはしっかりとそういうもくろみを達成できるようにコストの削減に向かって努力をしていただきたいというふうに思います。

じゃ、もう1点いいですか。

○委員長（臼井正人君） はい。

○宇野 裕委員 そうしますと、市に移譲してもですね、当然——生き物を扱う施設でしょうから、移譲してもそのいわゆるコストがまたかかるわけですね。そのコストの負担というのは、移譲後はどこが負担するんでしょうか。

○委員長（臼井正人君） 山口課長。

○説明者（山口文化財課長） 移譲をすれば、当然、施設の管理それ自体が館山市のほうに移ります。ですので、基本的にランニングコストは市のほうで御負担いただくということで協議を進めておるところでございます。
以上です。

○委員長（臼井正人君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 そのコストはどのぐらいになるんでしょうか。

○委員長（臼井正人君） 山口課長。

○説明者（山口文化財課長） 水族館のランニングコストとして約600万程度、今、かかっておりますので、同じ程度の規模の施設を想定していますので、現状と同じ——600万ぐらいかなというふうに考えております。

○委員長（臼井正人君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 最後に。水族館をつくる意義だとか県の考え方、大体わかりました。ただ、こういう財政上に——先ほども申し上げましたように非常に厳しいと、そして、来年度以降、税収がどうなるかわからないという厳しい局面であります。そういう中で地元の強い要望があるということで、あるいは非常に老朽化しているという点においては理解はいたします。しかし、安房地域には鴨川シーワールドの施設もあります。あれは全国でも有名な施設でもありますし、非常にお客様も多いというふうに聞いております。そこにも水族館があるわけですね。それからまた、葛西臨海水族館ですか、これもあると。

そういう状況の中で地域の活性化だとか、先ほど御説明いただきました説明のような理由もあるということで、水族館をつくることについては理解はいたしますが、そういう類似の施設、しかも大きな施設があって——集客力の大きい施設があるという中で完全に競合する可能性がある。そういうことを考えますと——私、行ったことないんですけども、北海道にある旭山動物園ですか、あれは非常にコンセプトがしっかりしていて上野動物園より来客が多いとかというような話も聞いております。

ですから、お金をかければいいということではなくて、少ない予算の中にもアイデアをよく出して——きらりと光るといえるかですね、今までにないような水族館、発想を変えたもの——えっ、これが水族館なのと思えるような水族館みたいな——それは何かというのはちょっと私のほうからは言えませんが、そういう何というんですかね、税金を使っていいものをつくってくれたというような、将来、地域の人たちに喜んでもらえるような——しかも、今度、コストを負担するのは館山市になりますので、できるだけコストのかからない——先ほど 600 万というお話がありましたけれども、それをさらにもっとかからないような方法で管理ができるような、そういう観点も入れてしっかりとしたものをつくっていただきたいというふうに要望いたします。

最後にその辺の決意のほどをお伺いして終わりにしたいと思います。

○委員長（臼井正人君） 山口課長。

○説明者（山口文化財課長） 今、御指摘いただいた点を勘案しまして、館山市と協議してまいります。ありがとうございます。